

2020年オリンピック東京大会開催のカヌースラローム競技場建設計画において仮施設による競技開催を要望する陳情

(総務委員会付託)

受理番号 第219号 受理年月日 平成26年11月11日

付託年月日 平成26年12月2日

陳情者 . . . . .  
. . . . .

陳情原文

1 陳情の理由

江戸川区内で2020年オリンピック東京大会のカヌースラローム競技を開催する計画が進行しているが、仮施設にて開催することにより、次にあげる利点を実現できるため。

- (1) 恒久的な新築施設を構築するよりも、コストが大幅に削減できる。
- (2) オリンピック開催後に、施設の維持・運営費の負担を無くせる。
- (3) 周囲の水域環境への悪影響を最小限にとどめることができ、都心で育まれた稀有な生物多様性を保全することができる。
- (4) 仮施設による開催であるため、必要最低限の環境評価により施設整備が可能である。
- (5) オリンピック東京開催のビジョンである「コンパクトな会場計画」に沿う施設整備である。
- (6) オリンピック憲章に示す規則に遵守した施設整備が可能である。
- (7) オリンピックムーブメント・アジェンダ21の精神に基づいた競技施設の設置と運営がかなう。

2 現行見直し案との比較

現在、葛西臨海公園隣地の下水道局用地を活用し、恒久的な施設整備の検討が行われようとしているが、本陳情案に比較し、下記にあげる事項が不利点である。

- (1) 恒久的な施設は仮施設の建設に比較し、建設コストがかかる。また近年の建設費コスト高騰から、計画時よりも高額な建設費負担を強いられる可能性が高い。
- (2) 恒久的な施設を建設した場合、維持・管理していくためのエネルギー及びコスト試算を実施しているが、最低でも1年間で4,500,000kWhを超えるエネルギー消費であり、人件費等を含めると、年間1億4千万円以上の維持費がかかる見込みである。(別添資料参照)  
オリンピック開催終了後に施設の維持・管理費を江戸川区が負担する可能性もあり、それを回避する必要がある。
- (3) 大量の水量を使用するスポーツ施設であるため恒久的な施設であると、約四

半世紀をかけて再生している葛西臨海公園周辺の汽水域環境に悪影響を及ぼす可能性が高い。

(4) 長期的な時間軸を見据えた環境評価を実施する必要がある。

環境省や東京都が発行している「レッドデータブック」で絶滅危惧種に指定されている生物が周囲に複数生息し、環境保全のためのミチゲーションを考慮する必要もあり、施設建設費以外に多大なコストと時間がかかると思われる。また淡水を循環させる施設では、次亜塩素酸ナトリウム液などの消毒水を用いる可能性が高い。その様な人工水が恒久的な施設により大量に排水された場合、周辺域の生態系に悪影響を及ぼす危険がある。

(5) オリンピックムーブメント・アジェンダ21の「3.2.2 環境保全地域および地方の保護」にて示されている、「スポーツ活動、施設やイベントは、環境保全地域、地方、文化遺産と天然資源などの全体を保護しなければならない」とあり、恒久的な施設を建設する行為そのものが、この主旨に逸脱する可能性が高い。

(6) オリンピックムーブメント・アジェンダ21の「3.2.3 競技施設」にて示されている、「スポーツ施設の運営は、環境に配慮し、資源やエネルギーを保護して行わなければならない」とあり、やはり恒久的な施設を建設すること自体が、この主旨に逸脱する可能性が高い。なお、逸脱していると評価された場合、オリンピック憲章の定めにより、オリンピック競技大会の開催そのものを撤回しなければならない。

(7) 周囲の街に、ヒートアイランド現象を促進させる可能性が高い。

### 3 その他

(1) 本主旨と同内容の政策提言を2014年度 eco japan cup「ポリシー部門」に提出済みである。

(2) 海拔0m 地区に恒久的なカヌースラローム競技場を建設しようとしている点について、海外NPO団体等も、前代未聞の事象として関心が高い。

上記の理由等に対し、貴議会において下記に示す事項を東京都行政に対して提起するよう検討の協議をしていただきたく、陳情いたします。

2020年オリンピック東京大会を真の意味で成功させるためにも、よろしくお願いたします。

### 記

2020年オリンピック東京大会におけるカヌースラローム競技場建設計画に関して、江戸川区内で計画がすすめられる場合、恒久的な施設ではなく仮設施設による競技運営方式にて開催する点。